

令和8年7月9日(木) 10時～11時15分 @朝日庁舎会議室2-4

令和8年度第1回木更津市自殺対策協議会

出席者	会長	小林 圭介
	副会長	望月 悦子
	委員	鎌田 哲也
	委員	岩井 一雅
	委員	中田 明德
	委員	朝生 和弥
	委員	徳重 貴浩
	委員	阿津 直人
	幹事	山本 奈朋子 (福祉部福祉相談課)
	幹事	廣瀬 由佳 (福祉部福祉相談課)
	幹事	望月 紀裕 (福祉部福祉相談課)

(司会・廣瀬係長)

定刻となりましたので、ただいまより令和8年度第1回木更津市自殺対策協議会を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、本日はご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます、福祉相談課の廣瀬と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、人事異動等により新たに委員となられた方々をご紹介します。

君津健康福祉センター 地域保健課 課長 中田(なかた)様、木更津労働基準監督署 安全衛生課 課長 朝生(あそう)様、畑沢中学校 校長 徳重(とくしげ)様、また、本日はあいにくご欠席ですが、木更津警察署 生活安全課 課長 岩井(いわい)様の4名様にあらたに委員に就任していただきました。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

次に事務局においても異動がございましたので、ご報告いたします。

福祉相談課、望月でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日の資料を確認させていただきます。机の上にご用意しておりますのは、本日の次第と、今年度からの自殺対策協議会委員名簿でございます。次に事前にお送りいたしました資料も確認をさせていただきます。

鑑の送付文のほかに、事前送付資料一覧表の紙が1枚、その事前送付資料一覧に沿いまして、左上に番号付しております書類の①、A3横向きの綴りが「木更津市自殺対策計画進行管理表」同じくA3横向きで②が「木更津市自殺対策計画進行管理表」の「評価指標」、③A4の縦向きで3枚綴りのものが「議題2 その他 昨年度の取り組みの振り返り及び今年度の取り組みについて」、④「木更津市ゲートキーパー研修 アンケート結果」、⑤「心の健康や自殺対策に関し正しい知識を得るための講演会アンケート結果」、その他としまして、番号はございませんが、昨年度作成しました「相談窓口のご案内」のリーフレットが2種類と、ステッカーシール1枚でございます。

また、今年度あらたに委員になられた方には、「第2期木更津市自殺対策計画」を送付させていただきます。

資料をお持ちでない方は、お申し出ください。

よろしいでしょうか。

続きまして、議事に移る前にご報告いたします。

本日、委員総数11名のうち8名の方にご出席いただいております。

出席が過半数に達しておりますので、附属機関設置条例 第6条第2項の規定により、本協議会は成立いたします。

また、本協議会は公開となっております。

本日の傍聴人は、いらっしゃいません。なお、議事録作成のため、議事を録音させていただきますこと、議事録は後日、市のホームページ等で公開いたしますことを あらかじめご承知おきください。

ご発言の際は、卓上のマイクのスイッチを押してからご発言ください。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に移らせていただきます。

小林会長、議事進行をよろしくお願いいたします。

(議長・小林会長)

議長を務めさせていただいてます、木更津病院の副院長の小林と申します。

皆さんも何らかの形で、施設や病院と色々とやりとりさせていただいてると思いますので、この機会にいろいろと想ってることとか出せていけたらと思います。

まずは議題1ですね、第2期木更津市自殺対策計画の進行管理についてということで事務局の方から説明をお願いできればと思います。

よろしくお願いいたします。

(事務局・望月主査)

それでは、議題(1)第2期木更津市自殺対策計画の進行管理について、ご説明させていただきます。

お手元の資料①、木更津市自殺対策計画進行管理表をご覧ください。

こちらは、本市の第2期木更津市自殺対策計画に基づき、庁内各課において取り組んでいる、自殺対策に関する事業の、活動状況を取りまとめたものとなっています。

それぞれ、令和7年度における、活動内容、成果及び、自己評価、また今後の課題や、令和8年度の活動予定を記載しております。

資料②木更津市自殺対策計画進行管理表(評価指標)につきましては、第2期木更津市自殺対策計画に定めました評価指標の実績を取りまとめたものとなります。

計画にて年度ごとに定めた数値に対し、それぞれ自己評価をしております。

なお「自己評価欄」につきましては、その事業の取り組み内容が、自殺対策としてどうであったかの、各事業所管課における「自己評価」となっております。

こちらは、Aの「達成」から、Eの「未実施」までの、5段階評価となっており、ほとんどの事業で、Aの「達成」、または、Bの「7割程度達成」となっておりますので、ここでは、評価が低かった事業の状況を、ご説明させていただきます。

まず、資料①3ページ一番下の、「9シニアクラブへの支援」でございますが、こちらは、シニアクラブにおいて 実施予定でありました、自殺問題に関する講演会や、研修会について、有益な講演会等が見つからなかったことにより、未実施の、「E評価」となったものでございます。

次に、6ページ一番上の「2自死家族への相談支援」でございますが、こちらは自死遺族、もしくはその関係者等からの相談がなかったため未実施の「E評価」となったものでございます。

続いて資料②「評価指標」についてご説明させていただきます。

1ページ、下から4番目の「自殺対策キャンペーンにおける啓発活動」の評価指標として、令和7年度は市ホームページレビュー数を150としておりましたが、実績としては70と下回り、達成率としては46.7%であり「C評価」となったものでございます。

ただ、こちらは毎月市の公式XやFacebookにて、相談窓口の周知を行っており、引き続き、市ホームページに限らず、様々なツールを利用して、周知を行ってまいります。

全体的には、概ね、計画に沿った取り組みが出来ておりますので、引き続き、庁内で連携して、自殺対策を推進して参りたいと思います。

以上で、概略ではございますが、自殺対策計画の進行管理報告とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

(議長・小林会長)

はい、ありがとうございました。

それでは説明の方ありましたけど、これに関して何かご質問とかご意見などございましたらよろしくお願いいたします。

(鎌田委員)

評価の①の3ページですか、一番下のシニアクラブ支援で講演会が開催できなかったということで、有益な講演会や研修会が見つからなかったという記載がありますが、実はシニアクラブの事務局はですね、社会福祉協議会でやらせていただいておりますので、運営をやっておるんですけれども、自分たちで地域やクラブ自体で考えてやってるのはいろいろその芸術的な作品展であったり、運動会であったり、グランドゴルフの大会やボッチャなどの新しいスポーツを紹介したりですね、そういう活動をしておりますんで、シニアクラブに入ってもらっしゃる方って、みんな老後をポジティブに捉えられて、こういうグループに入って楽しい活動ができるよねっていう方たちなんですね。

ほとんど例外なくそういう方たちですからその、自殺対策ですっていうのがですね、あんまり雰囲気としてなじまないのかなと。

ご本人とそのクラブに入ってもらっしゃる方たちに対して、それほどの必要があるかどうかっていうのはちょっと疑問で、周辺の方たちに対する配慮であるとか、気づきであるとか、そういう面では大変重要な部分があるんだろうと思うんですけれども、なんとなくイメージとしてそういう印象を受けました。感覚でするので、間違ってることもあるかもしれないですが、無駄だというふうには思わないんですけれども、当事者の方たちがどういうふう

に受け止めるのかというふうに思いました。

以上でございます。

(議長・小林会長)

鎌田さんありがとうございます。

ちょっともうちょっと聞かせていただきたいんですけど、(資料①の)その上、シニアクラブへの支援の上に「8高齢者の居場所の提供」ってありますよね。これで何かグラウンドゴ

ルフとかそういうのもあったりするんですけど、これとその社協さんは関連されたりしますか？

(鎌田委員)

シニアクラブの活動そのものが、こういうことにも繋がってます。これだけじゃないんですけれども、そういう大会では我々の職員が事務局としてその大会を運営したり、お手伝いしたり、というものになってます。

それから、各地域ですとね、まちづくり協議会等でいろいろな自主的な活動も最近広がってきました、いろんな取り組みですとね、そういうところについても地域に横文字ですとね、コミュニティ・ソーシャル・ワーカーという、そこをカバーする職員が張り付いておりますので、地区社会福祉協議会の会議であったり、そういう町内の会議であったりというところにも直接顔を出させていただいて、運営にご支援をさせていただくような活動をさせていただいております。

(議長・小林会長)

鎌田さんがおっしゃってることとすると、もう来てる人たちは元気だから大丈夫そうで、あと来ない人たちの問題もない人たちに関してはその居場所の提供っていうその9番の上の8番のやつと、あと次の10番、4ページの一番上の10番の地域高齢者把握事業、これであと見守りキーホルダーとかっていうのをなんかちょっとやっててしかも登録者数が4,105名もあるというところで、何かこういったところで、なんていうんですかね、早く問題を見出すっていう手はずになっているのかなって、いうふうに思ったんですけれども、どうですか事務局さんそんな感じですかね。取り組みとしてはその居場所の提供をしているそこで活動をグラウンドゴルフとかいろいろやったりして健康的に過ごす、そこに引っこからない人たちに関してその高齢者把握事業がフォローしているみたいな感じじゃないですかね。

(事務局・廣瀬係長)

そうですね、居場所の提供であったりとか高齢者把握事業、見守りキーホルダーであったりとか、そういったものをきっかけにご自身の居場所であったりとか、あと何かあったときの緊急連絡先だったり、しっかりと周囲に周知できるような環境が整えられてるかと思えますし、あとは逆に居場所に最近顔見なくなったねとかっていうところの気づきの場にもなるかと思えますし、閉じこもりがちの方を外に出す、こういうところがあるけど一緒に来ないか、というようなきっかけの場にもなるかと思えますので、孤立だとかそういったものを防ぐために活用できればと考えております。

(議長・小林会長)

ありがとうございます。

秋田県の自殺対策でね、孤立をいかにしていくかっていうところでいい場所をたくさん作ってっていうやり方をしたと思いますけれども、そういうモデルケースがあったりするわけなんで、非常に参考にしやすいのかなと思いました。引きこもりの方がやっぱり一番まずいかなって、独居の高齢者の方をいかに孤立させないっていうところになってくると思います。自殺対策協議会をいつもやってると思うのが、問題が広すぎて一個一個潰すとかってすごく難しいなと思うんですよ。だけど楽しい木更津市にしちゃえば楽しいから好きだからなんかいろいろ自分も参加していこうみたいなノリを作っていければですね、1個1個問題を潰すよりも、もうちょっとやりやすいのかなっていうふうに思ったりするの

で、社協さんの取り組みとか大変いいと思いますので、引き続きお願いしたいと思います。

この項目とかがってどうやって決めてるんだっけ。なんか未達のやつって、下の自死家族のやつも未達のままじゃないですか、ああいうのってどうにかなんないのかなって思います。

(事務局 廣瀬係長)

福祉相談課の方で生活困窮や生活にお困り事のある方の相談対応をする中で、実はここ最近ではないけれども、かなり以前にお身内の方が自死されているというようなことを伺うということですが、多分自死の直後であったりと、なかなかご相談に繋がることが少なく、また、そういった方を把握すること自体もやはり難しいというような状況がありますが、ちょっとまたここについては出るかもしれませんが、消防署の方に、自殺未遂等で救急搬送された方に何かできないかということで、今回お配りしたリーフレットを消防署の方に提供させていただいて、相談窓口こういったところがあるよというような周知を一応していただくようお願いを双方で協力をさせていただいているところですがちょっと具体的にそれに繋がったというようなのが、ちょっと実感というか報告等はありません。

そういった予防的な取り組みには、今少しずつ力を入れようかなというところでございます。

(議長・小林会長)

ありがとうございました。

この後の今年度の取り組みに関する議題の中の議題にもなりますね。

引き続きこれはこの項目自体は変えずにずっとということになりますかね。

(事務局 廣瀬係長)

今年度、今回の第2期の計画に記載されている事業になりますので、計画期間中はこの事業について報告を受けていただく形となります。

(議長・小林会長)

それではあと他に何か気になるところとか、どうでしょうか。

私個人としては自殺対策基本法の改定に伴って後々、最近の流れでやっぱり10代の方の自殺だけが増えてるっていうのはちょっと問題かなあと考えていまして、そういう意味では、児童生徒のSOSの出し方に関する教育の推進というところが多分今年度、力を入れなきゃいけないところかなっていう考えておりますが、何かその辺もちょっと踏まえて、もしこの後特に何か皆さん質問とか、ご意見がなければ、昨年度の取り組みを振り返りおよび今年度の取り組みについて、事務局の方からお願いいただければと思います。

(事務局・望月主査)

それでは、議題(2) その他 昨年度の取り組みの振り返り及び今年度の取り組みについて ご説明させていただきます。

お手元の資料③、議題2その他 昨年度の取り組みの振り返り及び今年度の取り組みについてというタイトルの資料をご覧ください。

こちらは、令和7年度に実施した取り組みの報告および今年度の取り組みについて記載したものです。

令和7年度は資料にありますとおり、令和8年1月30日(金)に、ゲートキーパー研修を

開催いたしました。市の職員研修と合同で開催し、一般市民は39名、市職員は20名参加いただきました。アンケート結果については、添付資料④のとおりです。

また、日付が前後いたしますが、令和7年12月7日に、小林会長に講師を務めていただき、心の健康や自殺対策に関し正しい知識を得るための講演会を開催いたしました。参加者は49名でアンケート結果は添付資料⑤のとおりです。

毎年自殺対策の取り組みの一環として中学生向け、一般向けリーフレットを作成しております。事前にお送りした資料のうちA4の両面印刷のものが中学生向け、部数の関係で、白黒印刷でお渡ししている方もありますが、「ひとりで悩まず 誰かに話してみませんか 相談窓口のご案内」という記載のものが一般向けのリーフレットです。

中学生向けリーフレットについては市内12の中学校にお願いをし、全校生徒に配布をしております。

なお、例年リーフレットをポスターサイズに印刷し、掲示しておりましたが、令和7年度はあらたな取り組みとして、事前にお送りした資料にもございます「こころの健康相談統一ダイヤルのステッカーシール」を印刷し、市役所をはじめとした市の施設の、トイレや手洗い場の鏡に貼るなどの掲示や、配布を行いました。

啓発活動として、9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間について広報きさらづへ記事を掲載するほか、年末年始の相談窓口を市ホームページに掲載、また毎月1回市公式XとFacebookへチラシの画像を掲載し相談窓口の周知を行っております。

今年度も同様の取り組みを行う予定でありますが、これまでの取り組みから生じた課題や検討すべきと考えている点がいくつかございます。

まずゲートキーパー研修ですが、対象者、テーマ、依頼する講師についてです。

過去には民生委員さん向けに実施したことが多かったようですが、昨年度は一般市民の方を対象に実施いたしました。

今年度も、昨年同様、一般向けとして参加者を募り、一般向けのテーマで実施するのがよいか、「若者を対象とする」といったように、参加対象者をしばって、参加していただく方にあわせたテーマにするのがよいか。その場合、どういった対象者にするのがより有益なものとなるのか。またそれに応じていただける講師の先生の選定について、実施にあたり整理をしなければならないと考えております。

次の、心の健康や自殺対策に関し正しい知識を得るための講演会については、令和3年より小林先生に講師をお引き受けいただき、広く一般市民の方を対象に開催しております。

当初は福祉専門職の参加が多かったようですが、昨年度は年齢や職種等、幅広い方にご参加いただきました。

また、昨年度は初めて「日曜日の日中」という時間帯に開催いたしました。

参加者のアンケートからも、参加しやすい開催時期として、土日祝日の日中という回答が多かったですが、今年度の開催はどうするかを検討が必要です。

また2つの事業の共通課題として、講演会等の開催の周知について、がございます。

市HPや市公式SNS等を利用し周知を行っておりますが、市からの情報をチェックしている方以外のもとに情報が届きにくい傾向があります。

昨年度、あらたに「きさこんぷらす」と「きさらづレポート(きされぽ)」での情報発信を行いましたが、アンケート結果では、やはり市HPやSNSなど市からの発信情報で知ったという方が多かったのも、引き続きの課題となります。

次に、リーフレットについてですが、リーフレットにつきましては、毎年相談窓口の連絡先や担当部署名等の確認を行っておりますが、掲載内容については大きな変更はなく毎年発行しております。掲載内容が見やすく使いやすいものへのブラッシュアップが必要で

はないかと考えております。

最後に、例年のポスターにかわり、昨年度作成したステッカーシールについては、今年度も同様に作成し、中学校を中心に、貼付や配布を依頼する予定です。

以上令和7年度の取り組みと今年度の実施にあたっての検討課題についての説明でございます。

それぞれの取り組み内容について、忌憚のないご意見をいただければと存じます。

どうぞよろしくお願いいたします。

(議長・小林会長)

ありがとうございました。

そしたら、まずその振り返りに関していかがでしたでしょうか。

令和7年度に実施した取り組みについてというところで、いろいろやりましたけれどもこれに関してご意見として、はい望月さん。

(望月委員)

私は、小林先生の講演会に参加させていただきまして、日曜日だったということもあって、参加される方の層が違う、先生の患者さんの方がやっぱり多く語られたっていうのがまたあのすごい近い関係というか、それとあと先生が最初にあの自己開示されたことがすごく聞きやすかったんじゃないかなっていうふうに思い、またあるといいと思ってます。

ゲートキーパーの研修会の方は、満員で参加ができませんでしたが、参加者の方がすごくどちらも年齢層が幅広くなってるという感じがあって、広い年代、80代の方も参加されていたようなので、そういうのが広がっていくのがいいなと感じました。

以上です。

(議長・小林会長)

ゲートキーパー研修の方ね、私も1回はやらせてもらったんですけども、何かこれもだから、あの、例えば私の講演の去年のやつ日曜日、働いている人をターゲットにしようっていう、そういう感じで二重にしたんですよ。

で、ゲートキーパーに関してもどういう方を、何かターゲットにするっていうかそのマーケティングの方からちょっとやらないといけないのかなって思ったんです。

望月委員がおっしゃったように、行けなかった人の意見ってなかなかもらえないので、どういうニーズがあるかっていうところで考えた方がいいのかなと思うんですよ。そのニーズに合わせたやり方をするテーマを作るっていうのが、できたらそういうやり方でいきたいのかなっていうふうに思ったんですが、それでいくと、何かゲートキーパーに関しては一般的にどういうところのニーズが多かったアンケート結果全部見てるわけじゃないんですけど、というニーズが多くて、それで今後こういうことを聞きたいっていう、いろいろ書いてあったりはしてもらえたと思うんですけども、どういうところにヒットしそうな感じがするって、ってなんとなくわかります？

(事務局 廣瀬係長)

アンケートの結果、全ての方の意見ではないんですが、やはり心の健康であつたりとか傾聴であつたりとかそういったところに興味を持たれる方が多かった、ゲートキーパーという言葉よりも、より早期型の傾聴の作法というか方法について興味を持たれる方が多かったという印象ではありました。

その中でニーズとしてあったのが、グループワーク形式で実際にあのワークに取り組ん

でいただいてということでちょっと少人数というか、そんなに広げられずに、ああやってどうしても会場の都合とか先生の都合で参加ができない方もいらっしゃるんですが、やっぱりもっとステップアップした内容を学びたいというようなもっと細かいところとか具体的な手法などを学びたいというような意見がありました。

あともっと似たような分野の日常生活のコミュニケーションとかに役立つような内容を知りたいというようなことは、去年もあつたしその前年にもあつたように記憶しています。

(議長・小林会長)

はいありがとうございます。

何かフワッとしたイメージですけれども、例えばこの研修受けた人でもっといろんなところに適用したいという、何かその広げるような考え方してる方と、あと、より専門職的に、難しい人を相手の寄り添い方をもっと知りたいっていうふうに専門化するっていうか、なんかそんなふうな感じで、これ難しいなと思いましたね。

ただ毎回テーマを変えながらやっていくっていうのがいいのかなって思ったんですけど、ゲートキーパーの方ではその寄り添い方が一番多分、ゲートキーパーの大事な目的は寄り添うだと思うので取り方はやっていくと思うんですよね。

で、私の方は今回ストレスをテーマにして直接、何か、自殺とストレスの関係っていうところでやらせてもらったけど、そうすると、実際に悩んでる人と、あとその悩みに寄り添うっていうふうに、これ、講演会としてはわかりやすくなっていいのかなって思いました。

私はそんなに寄り添い型の方はそんなに一生懸命やらなくていいのかなんですけども、それでそうするとね、ちょっとテーマを絞りをやすくなる。

で、今現在、もうゲートキーパーのテーマをどうするかって、これ今日決めなきゃいけないですか。

(事務局 廣瀬係長)

福祉相談課の方で講師の先生の方の選定をしたときに、前回お願いした先生は令和 7 年度と 6 年度と 2 年間お願いをしていますので、そもそもが、千葉県の公認心理士会の方をお願いをしてご推薦いただいた先生にちょっとお願いをさせていただきましてそういう方であれば、心理職の先生の方から立場的にいろんな中でお話して下さるのかなというような期待でちょっとこちらから依頼をしたんですが、例えば、こういった業態の先生であつたりとかっていうのも良いんじゃないかとかというようなアドバイス等々をいただければ、大変参考になりますのでお願いします。

(議長・小林会長)

皆さんどうですか、何かアドバイスになるご意見等があれば。

心理士さんは、割と適切かなと思うんですけど、どうですかね、またその線でよろしいんじゃないでしょうか。よろしくお願いいたします。

あとは心の健康や自殺対策に関する正しい知識を得るための講演会っていうのなんですけれども、これは私がやってるんですが、難しいのがね、なんか、私自身も制度的な自殺の研究をされてる方とか、専門職の方の話聞きたいなと思ったりするんですけども、高名な方がお値段が高いんですよ。で私はあの講演するのに断れない立場なので、これは、私自身はそのままやってもいいのかなって思っていますが、もし何かお安くやってくれそうな方が一番だと思っておりますが、例えば、個人的には私がやるもんだと思ってるんですけど、よろしいですか。で、これ日曜日またやりたいんですけども、やってみてどうでしたか。

(事務局 廣瀬係長)

参加者アンケートの結果にもあるとおり、30代であったりとか40代であったりとか通常はお仕事されてる方が多かったというような印象もあります。12月というところもあって準備等もあったので職員の負担もそこまではなく開催できましたので、もし小林先生のご都合は大丈夫であれば、夜間やるよりは日曜日や土曜日の方がいいのかなと、アンケート結果はそこで参加した方々というところはもちろんあるんだと思うんですけどいただいております。

(議長・小林会長)

それではまた日曜日でぜひやっていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

あと二つの事業共通の課題としてのその周知方法に関しましてですね、例えば5番の資料のところ講演会は何で知りましたかというところになりますと、市の公式LINEと市の公式XとかFacebookとかいろいろ書いてあります、広報きさらづ、市ホームページとかっていうふうな感じで書かれています。チラシは包括支援センターとか、市役所内とか、職場図書館中央公民館とかなんかいろいろ書いてあったりしますけれども、これに関しての周知の仕方に関して何か提案とかですね、これがいいんじゃないかっていうのがあれば、ぜひご意見いただきたいんですが、どうでしょうか。

(岩井委員)

各家庭にポスティングされてるんじゃないかと思うんですけども、毎週地域新聞っていうのが、これ確か八千代市の方で民間の方がやってる新聞がありまして、先週先々週あたりは何か袖ヶ浦でやっている月1回のディスコ大会みたいなのを取り上げてまして、この地区のことを取り上げてくれてるものがあるので、房総ファミリアに代わるようなものになればなとちょっと思いました。

(議長・小林会長)

これはどうですかね地域新聞に関しては把握されてましたでしょうか

(事務局 廣瀬係長)

ありがとうございます。私が住んでるエリアがポスティング対象外地域で、ちょっと存じ上げなかったものでちょっとまた確認をさせていただいて、もし記事掲載等お願いできるようであれば活用させていただければと思います。ありがとうございます。

(議長・小林会長)

個人的には何かLINEが今回手応えが良かった感じがしております。

LINEを見て、「先生今度やるんだ」ってっていうふうに言ってくれる方々も多かったんで、結構見てる人居るみたいですね。

公式LINEって登録どれぐらいあるんですかね。

(事務局 廣瀬係長)

登録数、お友達数については、ちょっと正式な登録者数はわかりませんが他の事業ですとかそういったものに関しても公式LINEで投稿が一番反応が良いのが他の事業に対してもおそらくそうかと思っておりますのでやっぱりチェックされてる方が多いです。

(議長・小林会長)

こういったものはどんどん使ってた方がいいなと思うんですが、同時にご高齢の方を取りこぼさないようにしていくってところで、その方向で今後も進めていけたらと思いますね。

また何か皆さんこれいいんじゃないかっていうのがあったら、よろしくお願いいたします。

(事務局・望月)

先ほどの公式LINE登録数、少し古い情報なんですけれども、昨年の秋ごろの時点でおおよそ25,000人の登録があるという情報が出てまいりました。半年以上前の数字ですので、その後おそらくもっと増えていると思われます。

※現在、おおよそ28,000人が登録中

(議長・小林会長)

早速調べていただきありがとうございます。

木更津市でいたい135,000人ぐらいの把握でよろしいですか。

それどういう世帯が多いのかっていうのがちょっと私もわかんないんですけれども、その中で25,000人にしたら高いですよ。

次の議題、チラシやリーフレットにつきましてですけれども、これらに関してなんか0内容デザインとか大きく変わってないっていうのがあって、もっと見やすく必要な情報を得やすいものも検討が必要かなというふうにリーフレットに関しては書かれています。

チラシに関してもQRコードなどを掲載しているか、悩みを抱える方に対して気に留められるような内容デザインかっていうあたりですが、実際このリーフレットやチラシを見て連絡してきた方っていうのって把握できるんですか。

(事務局 廣瀬係長)

窓口に来られたときに、こちらのチラシやリーフレットを持っているような状態であれば把握はできるんですが、福祉相談課の窓口にも取っていただけるように配置をしておりましたが、あまりを手に取っていただける様子がなくて、中学校の方には例年全生徒さんに配布をお願いしておりますが、やっぱりそうですねそれが役に立っているかというところは、なかなか効果というかそれが難しい部分ではあるんですが、他市も参考にはしてはいるもののちょっと何かもっと見やすい方向でとかがあったら、より良いものになるかなというところで議題として挙げさせていただいております。

(議長・小林会長)

わかりましたこれ結構悩んでる感じですか。

(事務局 廣瀬係長)

正直申し上げますと、職員の方が自分でデザインをし、自分で悩み事の相談機関などを調べて表にしてというところで、やはりデザインのプロの方がやってるわけではないので、やっぱりこういうところが違って見づらいですとか、ちょっとこれ調べるときに調べるの疲れちゃうとかそういった感想的なものでもいただくと、ちょっとまた見直すときにここをこうしてみようかなというような感じになりますので、ご意見と率直な感想をいただくと大変ありがたいです。

(議長・小林会長)

はいちょっと皆さんお手元の方のチラシなどを見て、なるべく辛い意見で、一人一人ちよっと聞いてみましょうかね。

(望月委員)

シールの大きさですが、もう少し大きくてもいいのかなと、貼る場所の関係もあるのかもしれないんですけど、年齢がいった人だと、もう少し大きい方がいいと思います。

あとは講演会のリーフレットだけでないですが、例えば薬局等も学校薬剤師や在宅の訪問してるようなところもあるんで、そういうところも配布にあたりうまく生かしていただいてもいいのかな。

リーフレットは、どうしてもいっぱい書いてあると字が小さくなりますし、字の大きさが全部同じですよ。だからそこは大きい文字とかそういうのがあると、何かちょっと目に付きやすいのかなっていうふうに感じました。以上です。

(鎌田委員)

なかなかこれだけの情報量を詰め込むと、望月さんがおっしゃったように、こういう形にならざるを得ないのかなっていうふうな気はしております。

少しデザイン的に目を引くようにプロに頼むなど、そういう工夫が必要だと。

それからステッカーの方は、例えば事業所なんかで、トイレとかどこに貼るとかそういうことを想定して作られてるということなんですかね。

それは実際に貼ってもらえばいいのかなと思うんですけど、具体的にはどんなところにお配りしているか。

(事務局 廣瀬係長)

配布先については市役所の駅前庁舎と朝日庁舎、各地域交流センターと図書館、あとは中学校の方に必要枚数を確認をさせていただいて、多分個人に配布したんだろうなというような学校もございました。

(鎌田委員)

配布先もこれからね、いろいろ開拓していく必要があるかなと思います。

(議長・小林会長)

何か今配布先の話が出たんですけど、ハローワークとか配布してないですか？

(事務局 廣瀬係長)

そうですねハローワークさんにはお願いはしておりません。

(議長・小林会長)

ハローワークに配布するのでもいいと思いますね。

(岩井委員)

本当に皆さんと同じなんですけども、これだけの内容を細かく網羅していただいてるので、よくこれだけに収まってるとなっているのが正直思います。

これを見直すってなると、だけどページを増やすって言ったってそうもいかないでしょうし、本当にプロの方に頼んでいくのかなってちょっと思っちゃうぐらいです。

あとステッカーについてなんですけども、この前のやつになるのか、公衆トイレの鏡のと

ころに貼ってあったのですが、それを見るとこのサイズよりも大きかったかなって思うんです。

もちろん貼っていただくところによれば、よってはこの小さなサイズがいいのかなとは思いますが、やっぱりちょっとあの、目に付くってところからすると、以前のサイズの方が目についてるかなと思いました。以上です。

(中田委員)

デザインに関しては私から助言することはございません。配布先について先ほど小林先生からありましたけれども、計画の47ページ、自殺に至った背景を拝見いたしました。これを見ますと、職場をお辞めになったとか、あとはお金に関するところもあるので、先ほどのハローワークさんと合わせて、例えば、年金事務所などに依頼するのもありかなと考えます。

(阿津委員)

どうしても仕事柄、予算の範囲内でいうことを考えてしまうんですけれども、いろいろ今までのお話の中でもありましたけれども、作るんだったら、目を引くように白黒よりもカラー、よくこういうリーフレットを作るときに指摘を受けるのが、文字をなるべく少なくとか画像とか絵柄を置く、それを読んでもらって、読んでいくうちに細かい案内先とか、そういうの入れたらどうだと言われるんですけれども、あと、先ほどステッカーももうちょっと大きめとか、全て予算の範囲内ですね、せっかく作るんで、目を引くように読んでもらえるように、ちょっと内容を精査していく必要があるのかなと考えております。

(徳重委員)

小・中学校の児童・生徒に向けて、リーフレットで相談窓口が、一覧としてまとめられているのは、子どもにとっても保護者にとってもわかりやすくとても良いと思っています。全ての学校での活用状況は把握していないのでわかりませんが、私が勤務していた学校では、生徒を通じて全員に渡すとともに、保護者連絡用アプリに木更津市はシグフィを使っていますが、シグフィを通して保護者の方にも配信したり、あるいはホームページで地域の人にも見ていただいたりして周知しております。

ただ、子どもにとっては、たくさんの情報があると、保護者もそうですけれども、どこに連絡をしていいかわからない方もいらっしゃると思います。学校関係では、リーフレット裏面の真ん中ぐらいにある県子どもと親のサポートセンターや、市のまなび支援センター、学校教育課に相談される方が多いように感じていますので、子どもたちに向けて、例えば記号などを付け、ここは初級として気軽に相談できますよといった目印があれば、それをきっかけにしてその他の窓口への相談も広がっていくのかなと個人的に思いました。

また、ステッカーについては、私が昨年度勤務していた中学校では、希望する枚数について、どのくらい希望したらよいのかと考えました。トイレの個室全部には貼りたいな、電話のそこには貼りたいな、トイレに行く入り口のそこには貼りたいなということで、必要な枚数を数えてお願いをして貼らせていただきました。もし、そのような学校ですと、今後ステッカーが配布されてもこれ以上貼るところがないことも考えられるので、もし生徒向けに配布することが可能であれば、必要な生徒に渡して家庭の好きなところに貼ることもできるのではないかと思います。そのような活用方法も可能であれば、ステッカーを希望しようとする学校もあるかもしれません。学校内に貼るだけでなく、必要な生徒への配布も可能であることを周知してもらえるといいのかなと思いました。以上です。

(議長・小林会長)

はい、ありがとうございます。具体的な使い方とかちょっと想像がつかなくと思って、今のお話だいぶ参考になります。

個人的にはシグフイっていいなと思ってて、あれでチラシとか来たのは私一応保存してるんです。後で見返すとかっていうのもできるし、とにかくそこに保存してあるなってわかるので、ものすごくやりやすかったんですね。

(朝生委員)

これまで皆様がおっしゃられたとおりの意見と同じですけども、やはりいかにチラシがメリットがあって、手に取ってくれるかっていうところが大事なところもあると思います。

これを見たときに手にとってくれるかなってというのは、ちょっと私も4月から入ってきたので、今年からですね、情報量が多いのですね、なかなか手に取るということが難しいのかなってちょっと個人的に思いました。

ただそうは言ってもやっぱり情報が必要ですので、入れるべきだろうというふうに思いますが、もうちょっと絞ってやることによって、当然ながら情報量も少なくなってきた、さらにアクセスできるようなところは逆に別のところでやっていただけると、もっとこう見やすさってところを重視していただいたものを作って、手にとってもらえるようにしてほしいっていうのを意見としてお願いします。

(議長・小林会長)

そうですね何か皆さんの意見をちょっと聞いていて感じたことを私もちっとお話できたらと思いますけど、確かにそのゴチャツとした感じがなんでなのかなっていうと、その悩んでる人自身がこれを皆さんも経験あると思うんですけど、よく案内ガイダンスの電話とかあるじゃないですか、あれで何番を押していいかわかんないってということあるじゃないですか、これの人は何番、この人は何番って言われるんですけど果たして自分の相談ってどこにあるんだろうっていうのがわからない。あと銀行に行ったときの受付機の番号、何番押していいのかわからない。

初めからこう割とテーマっていうのがあったりはするんですけど、「あらゆる悩みに対応」っていうのをどんと上に上げてもいいと思うんですけど、あらゆる悩みに対応っていうのはこれでも別枠でもっと大きくしちゃっていいのかなって思うし、これだけ書きましたけどもうとにかくわかんなかったら福祉部福祉相談課へっていう一行があったらかなり救いにはなるのかなってふうに思います。

私自身何かあったら福祉部福祉相談へと思ってるので、皆さんの仕事が忙しくなっちゃいますけど、その一言はどうか保障していただけるといいですね。

あと、その予算の関係があるので難しいんだろうなと思うんですけど、こういうステッカーとか、こういうものって何か使えるものとセットにしちゃうといいのかなと思うんです。

例えば、なんていうんですか、よくありますよね袋をパックするやつに、自分のところの名前を入れてそれを配ってたりとか、あと何かこれがねマグネットだったらすごいんですよ。冷蔵庫に貼れるんですよ。ただマグネットだと高くなるだろうというふうには思いますし、あとこういう何かリーフレット系のやつも、クリアファイルにしちゃえば、ずっとまあいいかなと思うけどこれも金かかるから難しいんだろうなと思いますが、何か使えるものとセットでやっちゃえば少なくとも捨てられないんじゃないかって思いますよね、そういうのがもしできたらいいなと思っています。

すいませんいろいろ考えちゃって申し訳ないです。

そしたらあと他何か言い忘れてる方とかありませんか。

なんか清川中でも少し話をしましたけど、あの、なんかSOSの出し方に関する講演って見たらなんかもう、八つの中学校でやったとかっていう、言ってるんですけども、これはもう自前でいろいろ用意されている感じですか？

(徳重委員)

いや、市の方で2年間に1回はそういった講演を行うということで、外部講師を呼んで行うような形はとってるんですけども、それプラス、また学校独自でそういったSOSの出し方教育ですとか、あの講演会っていうのは市とは別にやってる学校もあります。

来年度からは全中学校でやっていくようなこともちょっと聞いております。

(議長・小林会長)

そうなんですよ、それどうなってるのかなっていうふうに思ってるんですけどこれ今回の2期のやつには入ってないんだっけ。

(事務局 廣瀬係長)

2期の計画の、今回の資料②の方の評価指標ですね、来年度は何校というような目標設定がございまして、それで来年度、令和9年度については12校というような一応計画にはなっております。今年度が10校と記憶しております。

(議長・小林会長)

それに関しては、手配とかってどうするようになってますか。

(事務局 廣瀬係長)

講師の方の選定ですとか、保護者の方を呼ぶ・呼ばないですとか、何年生対象とするかなどそのあたりすべて各中学校の担当の先生の方でご準備いただくような形で、市としては学校教育課の事業にはなっているんですが、1校あたりいくらというような、そういった経費の請求を受けてお支払いをするようになっております。

(議長・小林会長)

その辺でまた本会で何か出来ることがありましたら、おっしゃっていただければと思います。

他に何か議題とかあれば、取り上げていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。事務局の方大丈夫でしょうか。

(事務局 廣瀬係長)

現段階では特段はないですが、昨年度の自殺対策基本法の改正がございまして、先生方の方が詳しい記事の冒頭に申し上げた子どもの自殺対策に関しての取り組みというところが、情報がどんどん来るようになっております。また、その辺りのところを庁内関係課等々も協議まだこれからの状況ですので、またその中であのご意見ですとか、そういったところをですねいただければと思いますので、またこの場をお借りしてお力添えをいただければと思います。

(議長・小林会長)

なんかAIを使ったやり方とかいろいろあるよね、詳しい人いればいいなと思いますし、

また今後の協議に合わせて、いろいろ話し合っていければなと思います。

そしたら、議題も終わりましたので、委員の皆様本日ご協力どうもありがとうございました。

それでは事務局の方に戻したいと思います。

(事務局 廣瀬係長)

小林会長、進行ありがとうございました。

それでは本日の協議会はこれにて閉会いたします。

皆様お忙しい中、大変ありがとうございました。